2022 年 9 月 2 日

学生の知見・パワーとの協働――

大学教育・経営への学生参画と今後の展開

～ 海外・国内の最新動向／参画から連携へ／コンセプトと事例 ～

【 9 月 29 日（木）オンライン開催】

ご参画・ご派遣のお願い

新型コロナウイルス禍では、「声をあげる学生」に注目が集まりました。「対面授業が無いのに、授業料や施設管理費を支払う必要はあるのか」、「ウイルスに感染したことにより、試験が受けられず、単位取得が危うい」等々の「声」はマスメディアでも頻繁に報道されました。

十分な説明をしている大学も多くありますが、コミュニケーションが上手くいっていないと思われる情況が露呈したような事例もありました。

アンケートをとり、その回答を基に改善していくことも勿論ですが、学生と大学（特に、経営陣）との“対話”はますます重要になっていくのは言うまでもありません。

さて、海外及び国内の大学において、「学生参画」のコンセプトは変化と深化が加速しております。「学習・授業への参画」「カリキュラム／プログラム設計への参画」から「学生スタッフ・職員としての運営参画」「経営・意思決定への参画」などのトレンドです。

学生は「学修者本位の教育」の受益者であるためにも、「大学コミュニティのパートナー」として、「学生・教員・職員・役員」の連携と協働による新たな高等教育計画経営の時季を迎えているといえましょう。

そこで、本セミナーでは大学の「教育・経営への学生参画」について、そのコンセプトの詳解とともに、先進的な取組みを行なっている大学にご報告をいただきます。

第 1 講の沖 裕貴氏（立命館大学）からは、大学における学生参画について、これまでから現在を概観し、「学生をパートナーとする」学生連携、国内外の活動事例や学生スタッフの種類や具体的な活動、学生参画・連携の今後の展望について、本セミナーの基調となるご講義を賜わります。

第 2 講の田中 正弘氏（筑波大学）からは、2020 年度からの学位プログラム制移行を機に、全ての学位プログラムを対象にプログラムレビューを実施しており、そのレビューに学生が「学生委員」として、参画しています。その選出方法、必要な知識や訓練、実際に経験した後の声についてご報告を賜わります。

第 3 講の谷内田 尚弘氏（北海道医療大学）からは、2008 年度より導入し、14 年にわたって運用している「Student Campus President（SCP：学生キャンパス副学長）」制度について、制度導入の背景、選出の方法、活動費や執務室の提供、これまでの主な活動実績と今後について、ご報告を賜わります。

第 4 講の髙松 理沙氏（上智学院）からは、法人・大学における SDGs（持続可能な開発目標）の活動を把握し統括するサステナビリティ推進本部の趣旨、役割、そして、そこで「学生職員」として参画してもらう取組みについて、業務内容や現状と課題、そして、今後の展望についてご報告を賜わります。

第 5 講の滝澤 博胤氏（東北大学）からは、昨年度開始した「学生評議員」制度について、その導入の背景や、選出方法、教育研究評議会との直接の意見交換の実際についてご報告いただくとともに、大学の目指すエンゲージメント型の自律的大学経営について、ご講義を賜わります。